

# 栗崎遊園、海水浴場 混雑した戦前戦後

# 浅電の80年

全線開業から  
北鉄浅野川線



「浅電」。沿線住民が愛着を込めてこう呼ぶ北陸鉄道浅野川線（金沢―内灘間）は14日、全線開業から80年を迎えた。北陸の宝塚」と呼ばれた栗崎遊園に向かう人が押し寄せた戦前、通勤通学客を運んできた戦後。海岸まで線路が延びていた昭和40年代までは金沢市民の海水浴の足であり、内灘町民にとっては長年生活を支えた鉄路だ。傘寿を迎えた歩みをたどってみた。（新谷彰久）

1925（大正14）年、内灘砂丘に大劇場から貸別荘、野球場、動物園までも擁する娯楽施設が完成した。栗崎遊園である。浅野川電気鉄道の社長だった金沢の木材商平澤嘉太郎が、多角経営の一環で兼六園の2倍近い約18万平方メートルに開いた一大レジャー施設だった。内灘町教委の学芸員竹村文



今は消滅した海岸で海水浴を楽しむ人たち  
＝1964年、金沢市の栗崎海水浴場

子さん（57）は「ドイツニランド勝負の陣容だったよです」と語る。宝塚歌劇団に倣って結成された呼び物の少女歌劇を見たさに大変な混雑だったという。栗崎遊園は太平洋戦争が開戦した41年、閉園に追い込まれるが、浅電は戦後、海水浴客で活況を取り戻す。北鉄の社員だった杉村竹子さん（77）は同町向栗崎2丁目には「栗崎海岸駅のすぐ前が海水浴場でした。マイカーのない時代、電車一本で海へ行く手軽さで常に満員だったものです」と懐かしむ。金沢市民にとって金石と並ぶ身近な海水浴場だった栗崎海水浴場は金沢港の整備に伴い、70年に閉鎖された。旧栗崎海岸駅を探してみたが、付近は林が広がり、駅跡を特定することはできなかった。北鉄は当時、栗崎海岸駅の手前に新駅を設けるか、内灘駅から金沢医科大までの路線延伸を検討したという。実現しなかったが、もし同大まで開通していたら「恋人の聖地」として売り出し中の内灘大橋周辺の姿も変わっていたかもしれない。北鉄によると、浅野川線の昨年度収支は2100万円の損失で、7年連続の赤字だった。乗客は153万人で、最盛期66年）の345万9千人の半分以下に落ち込み、厳しい経営状態という。昭和40年代までは車内に魚の行商の女性が見られた浅電。今では北鉄金沢駅が地下化され、車両は京王井の頭線（東京）で使われていた都市型に変わった。

## 今も変わらぬ愛着

杉村さんの案内で、栗崎遊園駅の跡を整備した向栗崎緑地公園を訪ねた。細長い独特の形で、往時のにぎわいが目に浮かぶ気がした。80年間走り続けてきた浅電に「ご苦労さん」と声を掛けたくなった。

北陸鉄道浅野川線 北鉄金沢―内灘の12駅を17、18分間で結ぶ。総延長は6・8キロ。浅野川電気鉄道（浅電）が1925年に七ツ屋―新須崎を開業。29年7月14日に金沢駅前―栗崎海岸が全通した。74年7月に内灘―栗崎海岸1・3キロが正式に廃止。栗崎海岸は夏場だけ営業する臨時駅だった。

栗崎遊園駅があった場所で当時を振り返る杉村さん―内灘町向栗崎緑地公園



朝夕は大勢の利用客が乗り降りする内灘駅

